

令和4年度 学力向上指導改善プラン

三田市立つじが丘小学校長 村岡 智行

学校教育目標		学がことを楽しみ、人とつながって生きるつじが丘の育成				
推進主体		管理職と研究推進担当・生徒指導担当・新学習システム推進部を中心に学力向上部を設置				
学力に関する前年度の状況・経年の課題等						
学力向上に向けての重点的な目標		4月	2～3月			
成果となる目標		成果となる目標	具体的な行動目標			
(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)	年度末評価			
			(今年度の成果と来年度に向けた課題等)			
			評価			
全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む) 学力的状況 定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科) 授業等からうかがえる状況(各教科) 傾学・力生活向上習い関係等 学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況 校内研究・研修の状況 家庭・地域等の状況 小・中における教科連携等の状況	<b>国語</b> ●文章全体の構成や展開を考えたり、条件に沿って自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりするなど、「書くこと」の領域で、全国平均より下回っており、課題がある。(経年) ○資料を下回った目的を明確にする設問では、全国平均を5ポイント、目的や意図に応じた資料を「使う」設問では、全国平均を10ポイント下回っており、良好な結果と見える。 ○「読むこと」は、全国平均を5ポイント上回っている。 ●文中における主題と主題の関係や修飾と被修飾の関係を入れたり、漢字を正しく使ったりする設問は、全国平均を下回り、言語の特徴や使い方に關して課題がある。(経年)	<b>算数</b> ○「図形」「測定」「量と関係」の領域においては、全国平均とほぼ同程度であった。「条件に合う時刻を求める」「速さと道のりを基に、時間を求める」設問では、正答率が前年度とよく理解できている。 ●選択式や短答式の正答率と比べると、記述式の正答率が低い。自分の考えを数式や、言葉を用いて筋立てて説明することに課題がある。(経年) ●数式や比や割合を明確に「捉えたり、除法の式との意味を理解したりすること」に課題がある。(経年) ○質問「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の肯定的評価は77.7%で、全国平均を3.3%上回っている。 ▲質問「算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の肯定的評価は、全国平均を下回っており、粘り強く取り組むことに課題がある。(経年)	<b>〇読書活動の充実</b> ○読書をする時間を昨年より増やす。 (1・2年15分以上、3年以上30分以上の児童が50%) ○読書通帳で100冊達成する児童を昨年度より増やす。(昨年度達成者41名)	朝の読書タイムを活用して読書習慣を確立させ、本に親しみ機会を増やす。 ・学校図書を中心に、本の選び方指導や本の読み聞かせ、図書館借りの発行などを通して読書の楽しさを伝える。 ・「読書通帳」を活用して読書の質・量とともに増やし、数多く読書した児童を表彰することによって、読書を一層奨励する。 ・図書室や学年フロアなど、本に親しめる環境を整備し、読書の楽しさを一層味わえるようにする	○学校図書や担任との連携で低学年を中心に、年間を通して読書活動への取り組みが深まった。 ○朝の読書タイムや図書ボランティアによる読み聞かせなどの継続した取り組みによって、児童の読書への関心が高まりつつある。教室では読書時間「読書」をとり、休時間にも図書室を利用したりして読書が進められている。 ○読書通帳で100冊達成する児童は、53名と昨年度より増えている。 ●生徒への生活アンケートでは、「学校の授業時間以外で読書をしているか?」という質問に対して、「50未満」が56%、「50以上」が44%以内が7%と半数以上の児童が短時間で読書する習慣が身につけていると思われる一方で、「しない」には30%の児童が答えている。本校が進める読書時間の目安を達成している児童は多く、課題がある。 ●図書室や学年フロアなど、読書の楽しさを味わえるような本に親しめる環境を整備し、書架の充実を図る。	A
		<b>〇文章を書く力の伸長</b> ○学年の発達段階に応じた書く力の向上を図る。 ○算数の思考過程を記述する問題の平均正答率が全国平均をめざす。	・低学年から日記や視写等の活動を通して、語彙力、表現力を高め、書くことに対する抵抗感をなくす。 ・分からない言葉は、辞書ですぐに調べさせる機会を多くとり、辞書を使う習慣をつける。 ・設定された字数や行数に合わせて、情報を取捨選択し、要約する学習を重ねる。 ・書いた文章を推敲する時間を設定し、自分の文章を読み直すことを習慣化させる。 ・図表やグラフなどを用いた文章や新聞記事を活用し、それらを用いる意図や効果について理解させるとともに、説明的な文章を書く際には、図表を効果的に活用できるように指導する。	・低学年から日記や視写等の活動を通して、語彙力、表現力を高め、書くことに対する抵抗感をなくす。 ・分からない言葉は、辞書ですぐに調べさせる機会を多くとり、辞書を使う習慣をつける。 ・設定された字数や行数に合わせて、情報を取捨選択し、要約する学習を重ねる。 ・書いた文章を推敲する時間を設定し、自分の文章を読み直すことを習慣化させる。 ・図表やグラフなどを用いた文章や新聞記事を活用し、それらを用いる意図や効果について理解させるとともに、説明的な文章を書く際には、図表を効果的に活用できるように指導する。	○国語など説明文での学習で、文章の構成立てがわかり、紹介カードや新聞などに書き表した情報をもとめたり、図や表を効果的に用いて表現したりできるようになってきている。 ○高学年では、学習したことをタブレットのアプリを用いてまとめる機会を意図的に仕組むことによって、自分の考えを言葉や文章でわかりやすく表現しようとした。自分の考えを伝えるために効果的な資料を選択したりするなど、相手意識を持ちながら取り組もうとする姿が多く見られるようになった。 ●あのねちや日記、視写等の日々の取り組みにより、少しずつ書くことに対する抵抗はなくなりつつあるが、低学年では書き表すための短い文章がほとんどだった。中・高学年では、段落相互の関係や題名と本文のつながりなどを意識しながら取り組み、自分の言葉で要約したりすることが多い。 ●課題や自分の考えに合わせて、読書手引きを活用し、自分の考えを整理したり、適切な言葉で表現したりすることには、まだ課題がみられる。 ●図やグラフ、文章など様々な表現方法の中から関連する情報を見つけたり、選んだりして、条件を整理する活動を積極的に取り入れていくようにする。	B
		<b>〇算数科を中心に「タイが生まれる楽しい授業」のテーマに沿って思考力を高める授業改善</b>	○校内アンケートで「算数が好き」という児童85%以上を目指す。	・「タイが生まれる楽しい授業」をテーマに、子どもが主体的に学習に取り組む授業の仕組みを研究する。 ・教育環境整備やつじが丘小学校スタイルのノート作りを推進すると共に、相互評価を充実させる。 ・「つむぎ」「かみかみ」「かみかみ」の授業の流れの可視化を図る。 ・課題提示の仕方や工夫に合わせ、情報を取捨選択し、要約する学習を重ねる。 ・自分の考えを工夫してまとめたノートをいいねノートとして提示する。ノートコアプスを発行し、相互評価の場を持つことを通して、学習意欲を高める。 ・タブレットなどのICT機器の効果的な活用方法について研究を進める。 ・「マイルード」を活用した協働的な学習の充実、情報の整理など学習者に位置付け、思考の可視化、操作化を促す。	○問題を見て、自分たちでめがてめがて作れるようになっていて、ポイントについても、子どもたちが自分たちでめがてめがていける流れを今後作っていくことが大切だと考えている。 ○前時の学習や既習事項を活用しながら学習を進めようとする姿が見られる。「私、これだよね……」と、具体的に授業内容を説明し、自分の考えを説明しようとしている。 ○タブレットを用いて、自分の考えを伝え合う機会を確保することで、活発な意見交換が促されるようになっていて、また、工夫してめがてめがてノートやタブレットを用いることでリアルタイムに共有しやすくなっており、相互評価の場や考えをまとめる手立となってきた。 ○タブレットから大型テレビに映し出すことによる視覚支援が効果的であり、課題感が容易になり、学習内容の理解が深まってきた。 ●児童の多くは「算数が好き」という気持ちがあるが、高学年になるにつれて、算数が苦手と感じる児童がおり、今後「タイが生まれる楽しい授業」をテーマにして授業内容を充実させていく。 ●子どもたちの思考の流れがふねないように、発問を考えていくことが必要である。 ●今後も課題提示の仕方や工夫したり、具体的な操作物を活用したりしながら、実感を持った理解が深まるようにしていく。	B
		<b>〇学習規律・授業規律の定着と学習環境の整備</b>	○聴き合い学び合うクラス作りを行う。	・正しい学習姿勢を目指し、キッピー体操を週2回行う。 ・学習の準備について指導・点検を行い、定着させる。 ・「目を見て話を聴く」、「反応しながら聴く」、「体を止めて聴く」「手遊びをしない」と、聴く態度の徹底を図る。特に低学年では、望ましい聴き方ができている児童を褒めることで、クラス全体の聴く態度につなげていく。 ・中学校区での合同研修を実施し情報や取組等について共通理解を図る。 ・がんばり学びタイム指導員による個別支援を行い、学習習慣の定着につなぐ。	○年間を通して、キッピー体操を行うことで、体幹が鍛えられつつあるように感じる。全体を通して、姿勢もよくなることを期待し、来年度も続けていく方向である。 ○指導補助員、がんばり学びタイム指導員による個別支援によって、「聴く」ことを意識したり、学習に対する意欲を維持したりすることができ、望ましい学習習慣につながっている。児童が、 ●目を見て話を聴く、「反応しながら聴く」体を止めて聴く「手遊びをしない」など、聴く態度の徹底を図る。特に低学年では、望ましい聴き方ができている児童を褒めることで、クラス全体の聴く態度につなげていく。 ●よいか聴き手があることによって話しやすい雰囲気や生まれるといった「聴く」ことの意味を理解させることで、聴き合い、学び合うクラスづくりを一層めざす。 ●個性のある児童への対応については、指導補助員、がんばり学びタイム指導員だけでなく、教職員間での共有をさらに深め、学習規律・授業規律の定着を図っていく。	B
		<b>〇児童の家庭等での学習習慣の確立</b>	○保護者アンケートで「進んで家庭学習をしている」の肯定的な評価を80%以上にする。	・「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習の方法を指導し、高学年においては自主学習や家庭学習を取り入れる。 ・「家庭学習の手引き」を、ゲームやスマホなどメディアを利用するときの約束を決めて、家庭でのルールをしっかりと決めることの大切さを知らせる。家庭と連携しながら情報モラル研修やタブレット研修などを行い、よりよい取り組み方を継続して啓発していく。 ・保護者の協力が得ながら、読書や家の仕事、運動についても意識して取り組めるように指導する。 ・児童が「宿題を確実にこなす」ように、学習カードを活用し、児童・保護者・担任間で日々の学習の振り返りができるようにする。	○来年度も、家庭学習の手引きを配布し、学校と家庭の連携しながら家庭学習を進めていく方向で進める。また、手引き配布時に活用の方針を説明し、自主学習などにも使うように意識付けをしていく。 ○生活アンケートでは、ゲームやスマホなどメディアを利用するときの約束を決めて、家庭でのルールをしっかりと決めること大切さを知らせる。家庭と連携しながら情報モラル研修やタブレット研修などを行い、よりよい取り組み方を継続して啓発していく。 ●今年度の保護者アンケートでは、「進んで家庭学習をしている」の肯定的評価が60%と前年度より減少している。また、家庭の中で学習習慣づくり(家庭での宿題学習をしている)に努めているという回答は75%と前年度より減少している。来年度の取り組みとして、 ●来年度の取り組みとして、来年度は具体的な取り組みの一として進めていく。 ●メディアを利用するときの約束を決めていよいよ家庭でのルールをしっかりと決めたが、引き続きゲームやSNSなどの利用の仕方について考える機会を持つようにする。家庭でルールを決めることの大切さを知らせる。また、家庭と連携しながら情報モラル研修やタブレット研修などを行い、よりよい取り組み方を継続して啓発していく。	B
	<b>〇漢字と計算を中心とした基礎・基本のさらなる向上</b>	○漢字のまとめのテストを繰り返し行って、正答率90%以上を目指す。 ○計算検定において90%以上を目指す。	・新学習における反復練習により、習得内容の定着を図る。 ・宿題となる復習・繰り返し練習によって学力の向上を目指す。 ・放課後学習の時間を確保することで基礎・基本の一層の定着を図る。 ・タブレットなどのICT機器を用いて、児童一人ひとりの実態に合わせた学習をする。履修を奨励することで、基礎・基本の定着を図っていく。 ・担任・教科担任・新学習システム教員及びがんばり学びタイム指導員との連携を密にし、個に応じた指導の充実をさらに図っていく。	○年間を通して新学習の継続により、習得内容の定着がみられる。 ○宿習でタブレットのアプリを用いることにより、学習に相手意識を持つ児童が、進んで学習に取り組む姿が見られ、復習や繰り返し練習も少し行うようになった。 ●宿習でタブレットのアプリを用いてまとめる機会を意図的に仕組むことによって、自分の考えを言葉や文章でわかりやすく表現しようとした。自分の考えを伝えるために効果的な資料を選択したりするなど、相手意識を持ちながら取り組もうとする姿が多く見られるようになった。 ●あのねちや日記、視写等の日々の取り組みにより、少しずつ書くことに対する抵抗はなくなりつつあるが、低学年では書き表すための短い文章がほとんどだった。中・高学年では、段落相互の関係や題名と本文のつながりなどを意識しながら取り組み、自分の言葉で要約したりすることが多い。 ●課題や自分の考えに合わせて、読書手引きを活用し、自分の考えを整理したり、適切な言葉で表現したりすることには、まだ課題がみられる。 ●図やグラフ、文章など様々な表現方法の中から関連する情報を見つけたり、選んだりして、条件を整理する活動を積極的に取り入れていくようにする。	B	